

**平成 30 年度
学校関係者評価報告書**

平成 31 年 4 月 26 日

中部地区医師会立ぐしかわ看護専門学校

目 次

1	学校の理念、教育目標	1
2	本年度の重点目標と達成計画・取り組み方法	2
3	教育目標と本年度の重点目標の評価	3
基準 1	教育理念・目的・育成人材像	4
基準 2	学校運営	5
基準 3	教育活動	6
基準 4	学修成果	7
基準 5	学生支援	8
基準 6	教育環境	9
基準 7	学生の募集と受入れ	10
基準 8	財務	11
基準 9	法令等の遵守	12
基準 10	社会貢献・地域貢献	13

1 学校の理念、教育目標

教育理念	教育目標
<p data-bbox="533 371 651 403">教育理念</p> <p data-bbox="152 451 1099 595">生命の尊厳（命どう宝）を基盤とする豊かな人間性を養い、すべての人々の健康と幸福のために行動する能力を培い、地域医療に貢献できるとともに国際社会の諸活動へも積極的に参加する姿勢を持って、看護の発展に寄与する人材を育成する。</p> <p data-bbox="533 675 651 707">教育目的</p> <p data-bbox="152 754 1099 866">人間を幅広く理解し、看護専門職として日々研鑽の姿勢を持って基本的な看護技術を高め、統合する力を養い、人々の健康生活の援助活動に協働し、国際的な視野をもつ看護師を育成する。</p>	<p data-bbox="1473 371 1592 403">教育目標</p> <ol data-bbox="1133 451 2089 866" style="list-style-type: none">1. 生命の尊厳を基本とする倫理観を備えた態度を養う。2. 人間のもつ普遍性を理解しながら、個別的な存在として人間をとらえる力を養う。3. 人々の健康があらゆる環境の相互作用で成り立つことを理解する能力を養う。4. 科学的根拠に基づく看護を行うための基礎的能力を身につけ、看護を発展させ統合する能力を養う。5. 保険・医療・福祉を総合的に理解し、地域の人々の健康に関するニーズを知り、社会資源活用の支援ができる基礎的能力を養う。6. 変化する社会に国際的視野を持って感心を寄せる姿勢と自己啓発できる能力を養う。

本年度の重点目標と達成計画・取組方法

平成 30 年度重点目標	重点目標・計画の達成状況
<ul style="list-style-type: none"> 1. 学生の質の向上 2. 教員の質の向上 3. カリキュラムの質の向上 4. 学習環境の整備 5. 入学生の確保 6. 地域に開かれた学校づくりの推進 7. 学校運営の安定化 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 学生の質の向上 <ul style="list-style-type: none"> 1) 豊かな人間性の醸成 <ul style="list-style-type: none"> ①ボランティア活動、サークル等の課外活動の推進 ②地域行事、実習施設行事への参加推進 2) 学生個々の能力に応じた計画的な指導 <ul style="list-style-type: none"> ①チューター制、学生の個人目標の設定および個に応じた指導の充実 3) 小集団学習による学業不振学生の強化 4) 自発的に調べる、考える、表現することができる授業設計・実施 5) 看護師国家試験 100%合格への支援 2. 教員の質の向上 <ul style="list-style-type: none"> 1) 新人専任教員、実習指導教員の指導力の向上 2) 教員の看護実践能力の向上のため実務研修の実施 3. カリキュラムの質の向上 <ul style="list-style-type: none"> 1) 現カリキュラムの運営と評価 2) カリキュラム改正を見据えた教科・教科内容の精選 4. 学習環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> 1) 実習施設の拡充と連携・強化 2) 看護スキルラボ室の利用促進 5. 入学生の確保 <ul style="list-style-type: none"> 1) 高校のキャリア教育への協力（看護のしごと出前授業、学校見学等） 2) 学校案内、ホームページ広告に学校の特色及び求める入学生像の提示 6. 地域に開かれた学校づくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> 1) 学校情報、学校自己評価、学校関係者評価、財務諸表等のネット公開 2) ホームカミングの実施 7. 学校運営の安定化 <ul style="list-style-type: none"> 1) 退学者・休学者の低減 2) コスト管理による予算執行の遵守

3 教育目標と本年度の重点目標の評価

教育目標	平成 30 年度重点目標	評価
<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命の尊厳を基本とする倫理観を備えた態度を養う。 2. 人間のもつ普遍性を理解しながら、個別的な存在として人間をとらえる力を養う。 3. 人々の健康があらゆる環境の相互作用で成り立つことを理解する能力を養う。 4. 科学的根拠に基づく看護を行うための基礎的能力を身につけ、看護を発展させ統合する能力を養う。 5. 保険・医療・福祉を総合的に理解し、地域の人々の健康に関するニーズを知り、社会資源活用の支援ができる基礎的能力を養う。 6. 変化する社会に国際的視野を持って感心を寄せる姿勢と自己啓発できる能力を養う。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の質の向上 2. 教員の質の向上 3. カリキュラムの質の向上 4. 学習環境の整備 5. 入学生の確保 6. 地域に開かれた学校づくりの推進 7. 学校運営の安定化 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の教育目標は倫理観を備えた態度育成を謳っていることから重点目標に学生の質をあげ、ボランティア活動、サークル等の課外活動、地域行事、実習施設行事への参加推進を行った。ボランティア活動は自主的な参加が見られた。しかし、地域の行事への参加は学校が地域の公民館などに出向き行事や催し物の把握ができてなかったため学生の参加を計画できていない。学校の積極的な活動を示していきたい。 ・チューター制は、学生への関わりはできるが、学生の主体性や協調性は、3年間どのように育成していくのか卒業生像と照らし合わせ検討する必要がある。 ・看護師国家試験対策は3学年の教員の退職・休職により学生への関わりが十分でなく、全教員が関わるができる環境を整備していく。 ・教員の質向上は、新任教員、実習指導教員の指導力の向上をあげた。新任教員研修への参加、OJTによる指導により成果がみられた。専任教員の質向上は、沖縄県看護教育再教育研修画年3回開催され、学生の主体性を育む協同学習を学び、教員の授業に活かしている。今年度浦添看護学校と合同研修会を計画しているが、次年度は本校主催の新任教員研修を計画する。 ・カリキュラムの質の向上は、現カリキュラム評価を行った。期待する卒業生像についての程度身についたかをみると、6つの卒業生像は、身についた、ほぼ身についたが85%～95%と高い回答である。 ・入学生（受験生）の確保は昨年の受験生354人、今年度350人と4人減である。しかし、中部地区の現役受験者が増加していることから、これまで同様、入学希望者の確保に努める。 ・地域・社会貢献は学校全体での取り組みを強化していく。 ・休学者は復学による学生増となり学習環境の影響が大きい。

基準 1 教育理念・目的・育成人材像

総括と課題	改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育理念・教育目的・教育目標・育成人材像は学則等で明確に定められており、学校案内や学生便覧等で具体的に示している。さらに今年度から各フロアの掲示板に「建学の精神」と「期待する卒業生像」を掲示し、学生・教職員に周知した。学外への公表は、学校案内、ホームページで行っている。引き続き毎年情報を整理し、わかりやすい学校案内を目指していく。</p> <p>教育課程は厚生労働省の保健師助産師看護師養成所指定規則を満たしている。昨年度のアンケート結果（平成 28 年度卒業生と雇用施設の指導者を対象に看護実践能力評価の調査を行った。）から見えてきた看護教育に不足している接遇教育と自己教育力に対し、積極的に協同学習を取り入れた。また、1～3 学年縦の連携が図れるよう兄弟学級での情報交換会を行うなど、先輩として、後輩として、学生自ら考え学び教えあう機会を多くした。今後の学生の変化に期待する。</p> <p>今年度、新たな実習施設を導入し、認可された実習施設の協力を得ている。施設側と学校側双方の意見交換会は、少数の施設で行っているが、来年度は主たる実習施設と行えるよう調整し、意見を教育内容、実習展開に反映させていきたい。</p> <p>志願者数の獲得に向けて、広報委員を中心に広報活動を行っているが、職員全体が広告塔として活動できる取り組みを展開していきたい。</p> <p>看護基礎教育のカリキュラム改正に向け現カリキュラムの評価と新カリキュラム構築に向けて準備をする必要がある。カリキュラム改正の動向を捉えつつ委員会活動を推進していきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・理念等は、学年開始時や実習前ガイダンス時以外にも夏季休暇明けなど機会あるごとに説明する。 ・ホームページでは、分かりやすい、見やすいなどコンテンツの充実を図る。 ・封筒への印刷を在庫が無くなり次第行う。 ・実習施設の指導者や卒業生の意見を教育内容に反映させる。 ・全実習終了後に、実習の振り返りと課題について、実習施設と教員双方による意見交換を行う機会を設ける。 ・全職員が学校の広告塔であることを認識し、広報活動ができる人材の育成 ・平成 31 年カリキュラム編成委員会の活動計画の立案と活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・特徴ある教育活動 ①問題解決への意思決定ができる領域別看護過程の展開 ②協同学習による協調性、コミュニケーション能力の育成 ③看護 OSCE（客観的臨床能力試験）による看護実践能力の育成 ④実習施設への就職者も多く、卒業生が実習指導を行える状況になっている。また、卒業生の来校も多く、卒業後の情報が得やすい。

学校関係者評価委員の意見

- ・教育理念・教育目的・教育目標・育成人材像について、その内容も含めて、どう学生に伝えるかが重要なため、視覚に訴える工夫をいろいろ行っており評価したい。学校案内もさらに改善され素晴らしい。
- ・1～3 年の兄弟学級による情報交換会の開催も、教育理念・教育目的・教育目標・育成人材像に繋がり、効果的だと思う。
- ・新カリキュラムに関しては、これからの看護の仕方・いろいろな専門機関等に合わせつつ、ぐしかわ看護専門学校の独特のものもあると良いと思う。

基準 2 学校運営

総括と課題	改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育理念・教育目的・教育目標を達成するために運営方針を明確に定め、教職員に周知している。今年度は学校評価を重点目標に掲げ、教職員全員で評価を行い、改善策に取り組んでいる。</p> <p>本校の学校運営方針は、「入口を固める」、「校内を固める」、「出口を固める」良循環型の学校づくりをめざしている。平成 30 年度重点目標は、①学生の質の向上、②教員の質の向上、③カリキュラムの質の向上、④学習環境の整備、⑤入学生の確保、⑥地域に開かれた学校づくりの推進、⑦学校運営の安定化とした。</p> <p>学校重点目標は明文化し、新年度の職員会議で周知している。重点目標は、学校評価と関連する内容であり、学校評価の基準に沿った各活動から目標の浸透度は評価できる。中間評価において評価に対する教職員からの意見を参考に修正を加え、年度末に評価を行っている。</p> <p>学校運営のための事務組織、教員組織、学生組織は整備されている。また、設置主体である医師会の就業規則に準じるが、ワークライフバランスを推進した規則になっている。</p> <p>教職員の採用基準は、「看護師等養成所における看護教員に関する規程」に準じ専任教員となることができる条件を満たした者を採用している。</p> <p>意思決定システムとして組織図を明確にしている。医師会の理事会を経て決定される事項、学校運営会議を経て決定される事項など、最終的に決定を下す会議があることを全職員に周知することが必要である。</p>	<p>学校運営方針、重点目標、学年歴、実習施設一覧、非常勤講師名簿、学校組織図、各種会議の目的、事務業務分掌、教務業務分掌、実習施設担当表、教員実習配置・時間数、教員別担当時間数、職員研修計画など帳表になっているのを整理し、事業計画として冊子にして配布している。</p> <p>職員ひとり一人が学校運営に関わっているという意識を持つことで、組織の活性化につなげられるよう期待したい。</p> <p>システムの共有ホルダーの整理を行い、タイムリーに最新の情報が入手できるようにしていく。</p>	<p>本校の学校運営方針は、「入口を固める」、「校内を固める」、「出口を固める」良循環型の学校づくりをめざしている。入学から卒業までの出口保障を行なうことも学校の役割と考えている。また、校内を固めるは、教員は学校運営の要であり、教員の授業が魅力あるものでなければ、学生は授業を楽しめないと考える。教員は教授方法に協同学習の手法を取り入れ、試行錯誤のなかで魅力ある授業を設計している。</p> <p>教員の意欲及び資質の向上への取り組みは、研修、学会への参加だけではなく大学院への進学も推奨している。</p>

学校関係者評価委員の意見

- ・職員が一丸となって学校運営に参画して欲しい。改善方策に掲げているシステムの共有ホルダーの整理も、情報の一元管理という事では必要と思う。職員の情報交換が行える場・環境づくりも継続して取り組んで欲しい。
- ・数多い会議がある中、一つひとつの会議への参加の仕方も含め、これまでの取り組みが継続できるようにして欲しい。

基準3 教育活動

総括と課題	改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>教育課程は保健師助産師看護師養成所指定規則を遵守し、本校の教育目的・教育目標を反映している。教育理念に沿った教育課程を編成、実施している。また、教育課程は看護師免許取得を達成目標として構築されている。講義履修要項は毎年評価修正している。科目の目標や教育方法、単位数・時間数は適切である。授業形態や授業方法は適切であり工夫されている。</p> <p>教育課程への外部の意見は、積極的に実習施設に働きかけ、卒業生の活用、実習施設の指導者の協力を依頼して双方の教育力向上につなげたい。</p> <p>成績評価の基準について、学生便覧に明示している。入学時に学生および保護者に説明し、在校生には、新学期にガイダンスをおこなっている。また、単位認定および卒業認定は認定会議において適正に判定している。</p> <p>看護師免許取得に向け看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインを遵守し、科目はすべて必修科目としている。</p> <p>看護学校運営の要である専任教員、非常勤教員の資格・要件については厚生労働省の保健師助産師看護師等学校養成所指定規則を遵守している。教員の採用計画は長期的視点で定めている。</p> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程への外部の意見の反映については、積極的に実習施設、卒業生の意見を聴取することが必要である。また、授業評価についても時期、方法を検討する。 	<p>現教育課程は毎年の集中会議の中で領域毎に検討された講義計画、内容を教員全体で評価修正している。今後、カリキュラム改正に向け、既存のカリキュラム検討委員会の意見を参考に、現教育課程を評価、検討する委員会を新しく立ち上げる準備を行なう。</p> <p>意見箱からの意見は、非常勤講師、専任教員の授業方法、内容等もある。学生の意見を授業に反映させていく。</p>	<p>教育活動の特徴</p> <ol style="list-style-type: none"> ①看護を必要としている人々の状態を識別し、問題解決への意思決定ができる領域別看護過程を展開している。 ② グループワーク、ふり返りなど集団で学ぶ協同学習を取り入れ、学ぶことの楽しさ、協調性、コミュニケーションを育成している。 ③ 看護 OSCE（客観的臨床能力試験）の模擬患者に実習施設の本校卒業生に参加協力を求め、双方にとって教育力向上の機会になっている。 <p>授業方法は目標に照らし、学生が自ら調べる、考える、表現することができる教育方法を実施している。表現の方法はプレゼンテーション、ポスターセッション、ロールプレイ、口頭等の発表をおこなっている。</p>

学校関係者評価委員の意見

- ・今後も即実践に活かせるカリキュラムをお願いしたい。
- ・課題に掲げている、実習施設や卒業生の意見を聴取する事は既に行っていると思うが、実習施設や卒業生の意見交換等の拡大とその内容をどう対応するか可視化できたらと思う。授業評価については、時期や方法を検討して欲しい。

基準 4 学修成果

総括と課題	改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>看護師国家試験合格100%を目標とし、国家試験合格に向けた対策を各学年で実施している。国家試験対策は学生の主体性に任せているが、教員の支援が必要な学生については、対策委員が個人、少人数に関わっている。国家試験合格実績・合格率共に全国水準を上回っている。国家試験対策委員を中心に県外の研修会での情報を得ながら国家試験対策の見直しを行っている。</p> <p>今年度から始めた早朝少人数クラス、夕方講座は好評であった。また、医師会主催の激励会は、学生のモチベーションアップにつながった。</p> <p>設置主体の医師会会員施設への就職率が減少傾向にあったため、平成30年度は会員施設への就職率アップを目標とし、県外就職が26%から16%と減少している。</p>	<p>進学希望の学生と進学した卒業生との情報交換会を設けるよう計画する。</p> <p>県外に就職している卒業生については、教職員の県外研修の際、卒業生の就職先を訪問するよう提案する。</p>	<p>設置主体の医師会会員施設への就職率のアップを期待するが、毎年、県内、県外への就職の割合が変化している。</p> <p>本校は8期生が卒業したばかりである。リーダーの役割、実習指導者、プリセプター等の役割を担っている卒業生の情報はあるが、主任への昇任、認定看護師等の資格取得等の情報は得ていない。近い将来、卒業生がキャリアアップについての講演等を担う人材が誕生することを期待している。</p>

学校関係者評価委員の意見

- ・ 国家試験は学生の主体性は重要だが、主体性が弱い学生のために、これからも早朝少人数クラス、夕方講座を続けて欲しい。
- ・ 看護師国家試験合格 100%を達成して欲しい。
- ・ 卒業生の社会的な活躍及び評価には限度があると思う。評価基準が難しいため、県内就職者の情報は（状況確認は）、実施しているように思う。3.0以上の評価でも良いのではないか。

基準 5 学生支援

総括と課題	改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>就職・進路等についての支援体制は整っている。3 学年において就職決定までに学年担当教員が状況を把握、内定が遅れている学生には面接を行い。結果は教職員間で共有し継続した支援が行われている。今年度は就職内定率 100%であり、進学は 2 名であった。中途退学者への対応については学年担当教員・教務部長・学校長と段階を踏んだ面談が行われている。退学に至らないよう生活面や学習面での個別的な支援を行い、学生の意思を尊重した支援が行われている。しかし、やむを得ず退学をせざるを得ない状況もあり、今年度は 1 名の学生（3 学年）が退学した。学生相談について体制は整えられている。就職や進学、健康面、経済的なことなど学年担当教員が窓口となり継続した関わりを持っており、今後も必要な時に適切な相談が実施できるよう継続して関わっていく。健康診断の実施、予防接種など学校生活における健康管理を行うための体制は整えられている。有所見者や要治療の学生に対しては教員間で連携を取りながら継続した支援を行っている。課外活動への補助金交付に向けて予算化の検討を行い、サークル活動規程を作成し周知する。</p> <p>入学時・後援会総会を活用し保護者との交流を図っている。成績状況や出席状況、学校生活・家庭での過ごし方など学生に関する情報を共有でき、学校への要望についても確認することができる。保護者との面談を実施し学生支援につなげている。再就職やキャリアアップ等についての相談は来校時に専任教員や学校長にて個別に実施されている。</p> <p>同窓会は会則に則り役員を選定が行われる。主な活動としては卒業生への記念品の贈呈であるが、これまで総会も 1 回開かれた。</p>	<p>卒業生への支援体制については、里帰りイベント（ホームカミングデー）を実施し、お互いの近況報告、教職員との和やかな交流が図られた。</p> <p>8 期生のホームカミングデーを 8 月に実施した。近況報告等でお互いの交流を図った。</p> <p>45 名の参加があった。</p>	<p>既習得認定の申請も入学前に案内され規定に沿って認定されており、平成 30 年度は延べ 17 科目（学生数 7 名）が認定された。</p>

学校関係者評価委員の意見

- ・就職、進路等について学校側の支援体制は素晴らしい。
- ・退学者に関してはやむ負えない事情かもしれないが、やはり 0 名になるよう、きめ細やかなサポートを継続して欲しい。
- ・ホームカミングデーは、その時期のバーンアウトを考えると実習現場としても効果的であり助かっている。

基準 6 教育環境

総括と課題	改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学内の教育環境として、学校の施設・設備・機器類は設置基準、関係法令に適合し、充実している。図書では看護の専門書や関連書籍、雑誌や新聞、DVD 等も揃え、卒業生も利用している。</p> <p>本館や講堂入口には車椅子用のスロープが設置され、3 階建ての校舎はエレベーターが設置されている。手洗い設備などの衛生管理は徹底している。消防設備に関しては年に一回の点検を業者に委託して実施。日頃は不具合時に補修依頼し、対応している。</p> <p>実習環境としては、臨地実習の意義や教育課程上の位置づけを実習要項に明示し、内容についても毎年見直しを行い、運用している。実習施設と実習調整会議を行い、指導者との連携をとっている。</p> <p>学校防災計画、消防計画や災害発生時における具体的行動のマニュアルは整備している。また施設・建物・設備の耐震化に対応している。年に一回うるま市消防署の協力のもと、防災訓練を実施し、助言を受けている。消防設備等の整備及び保守点検も法令に基づき行い、改善が必要な場合は適切に対応している。備品の転倒防止など安全管理は徹底している。</p> <p>薬品等の危険物の管理において、定期的にチェックを行い適切に対応している。危険物は鍵付きの保管庫へ保管している。教員と学生は総合保険制度へ加入している。</p>	<p>卒業生への施設・設備の提供として、図書以外にもスキルラボ室の活用などを検討する。</p> <p>臨地実習等の安全管理体制に関してはこれからの課題である。</p> <p>実習中の地震や災害時などの緊急連絡方法などについては検討を重ねているが、現状としては、教員が専用の携帯電話を携帯しているため、それに対応していく。</p>	<p>学内の教育環境として、学校の施設・設備・機器類は設置基準、関係法令に適合し、充実している。図書では看護の専門書や関連書籍、雑誌や新聞、DVD 等も揃え、卒業生も利用している。</p> <p>校内には、280 台収容の広い駐車スペースがあり、学生は無料で使用できる。また本館の一階には約 200 名程度収容可能なスペースの食堂があり、外注の業者が学食を用意。各階にも憩いの広場がある。</p> <p>校内に4台の防犯カメラを設置、時間外は管理会社へ委託、学生は19時までの完全下校を周知徹底している。</p>

学校関係者評価委員の意見

- ・緊急時の避難訓練（火災、地震・津波、不審者対応）実施は必要かと思われる。（現に小学校においては3回実施するようになっている）
- ・今後、実習中の災害発生時の対応については、実習施設との調整が必要。
- ・学生の19時までの完全下校という19時は妥当か。

基準 7 学生の募集と受入れ

総括と課題	改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>学生の願書の受付は入学時期、試験日に照らし日程を決定し、入学試験規定により、学生募集活動は適切に行われている。また、県内看護系大学3校、専門学校4校の入試計画を把握し本校の入学試験を計画している。</p> <p>高校主催の職業教育で「看護のしごと」を講義している。</p> <p>高等学校の進路担当教員や進学塾講師等を招いて、学校説明会を実施し情報交換を実施している。</p>	<p>全教員が職業教育「看護のしごと」ができるよう交代制で講義を担当する。</p>	<p>学校概要、受験対策などが載っている小冊子「看護のしごと」を参考に丁寧に対応している。</p> <p>パンフレットを高校、進学塾へ配布、実習病院、地域のコンビニへ広告を掲載している。</p> <p>オープンキャンパスは年1回開催、プチ授業体験を開催している。</p>

学校関係者評価委員の意見

- ・どこか目立つ箇所に学校の看板設置ができないものか。
- ・ぐしかわ看護学校の認知度はかなり高くなってきていると思う。「看護のしごと」小冊子を活用しての広報活動は引き続き継続して欲しい。各高校での説明会の実施等
- ・全教員が職業教育を担当することで、組織へのコミットも高くなると思う。

基準 8 財務

総括と課題	改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>財務状況について学生定員の充足率は 103.7%であり、設置主体の医師会の支援、県の補助金等により学校の財務基盤は安定している。学校運営は本校の教育理念、教育目標を達成するため計画的な予算編成を行い、執行に当たっては経費削減を常に意識し、適正なチェック体制により執行している。また公認会計士による監査と医師会評議委員会の監事による監査を受けいずれも適正であると認められている。</p>	<p>休学者、退学者は収入減の要因となっているため更に学生支援を強化し休学、退学者の低減を図る必要がある。</p>	<p>設置主体である中部地区医師会、沖縄県及び沖縄県医師会からの財政支援は、学校運営を円滑にしている。</p>

学校関係者評価委員の意見

- ・休学者、退学者が出る前に定期的なカウンセリング等を行い退学者を出さない支援ができないものか。

基準 9 法令等の遵守

総括と課題	改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>関係法令の設置基準に基づき、学校を運営し諸届等を行っている。また、学校運営に必要な規則・規程等を整備し適切に運用している。教職員、学生に対し法令違反、学則違反に関する相談窓口は設置されている。また、投書箱を設置し匿名の学生に対しても意見箱の回答を掲示する等対応している。</p> <p>教職員、学生に対し、法令遵守に関する学習会や教育を行っている。</p> <p>個人情報保護規定を定め適切に運用している。</p> <p>自己評価については、学則及び規程、組織体制を整備し、全教職員で取組んでいる。評価結果に基づき、目標、具体策を検討し学校改善に取り組んでいく。関係者評価についても学則及び規程、組織体制を整備し、全教職員で取組んでいる。</p>	<p>自己評価については、学則及び規程、組織体制を整備し、全教職員で取組んでいる。評価結果に基づき、目標、具体策を検討し学校改善に取り組んでいく。関係者評価についても学則及び規程、組織体制を整備し、全教職員で取組んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現在医師会では個人情報を安全に管理する体制「個人情報保護マネジメントシステムPMS取得のための作業が進められている。このため、個人情報管理について教職員全員が講義を受講した。 ・「働き方改革」に向け学習会を計画する。

学校関係者評価委員の意見

- ・これまでどうよう法令順守で継続対応。
- ・課題にもあるが、働き方改革に関しては継続審議。

基準 10 社会貢献・地域貢献・ボランティア活動

総括と課題	改善方策	特記事項（特徴・特色・特殊な事情等）
<p>卒業生、実習関連施設職員に対し、図書館の利用、図書貸し出し、公民館での地域行事や少年野球大会で駐車場を開放、在宅医療・看護関連の勉強会を実施している。</p> <p>学校施設（駐車場、教室等）・設備、体験セット等学校の機材・器具等を地域・関連施設・卒業生等に開放、貸出している。</p> <p>中学校・高等学校が行うキャリア教育、専門職業に必要な学習会で中・高校生を対象にした、思春期教育や妊婦体験に専任の教員を派遣している。老年看護学授業の一環で、学生と地域の高齢者とで、世代間交流会を図っている。</p> <p>外来講師、学生、教職員に対し、節電、節水等省エネ対策の周知、実践している。外部講師を招き、全ての教職員に対しSNS等の情報管理についての研修を行い、理解度テストを実施している。また全学生に対しては特別講演を開催し個人情報管理の重要性についての教育を行っている。その他にも講堂を開放し就職説明会や学校主催による講演会を行っている。</p> <p>小児看護領域のボランティアへ参加（サマーキャンプ）に参加している。2学年社会福祉の科目で社会福祉活動の一環として、ボランティアを必修としている。全学生がそれぞれの施設や場所に参加している。</p> <p>総合災害・防災避難訓練へ学生ボランティアを派遣しており、学生ボランティア活動結果の学内共有は今後の課題とする。</p> <p>社会、地域貢献に関して、概ね達成できている。今後も積極的な活動が継続できるよう、教職員への意識づけのため年度ごとに周知徹底を図りたい。</p>	<p>社会、地域貢献に関して、概ね達成できている。今後も積極的な活動が継続できるよう、教職員への意識づけのため年度ごとに周知徹底を図りたい。</p> <p>2学年すべての学生が15時間以上のボランティア活動を実施したが、活動結果の学内共有には至っていないため、今後の課題とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小児サマーキャンプ、ボランティア参加学生数；2年生 11名、1年生 14名 ・第2回在宅医療的ケア講演会ボランティア数；2年生 2名 ・高齢者交流会へ1学年 83名参加。

学校関係者評価委員の意見

- ・小学校において「命の授業」という授業がある。委員会へ登録し学校で授業ができると良い。
- ・ボランティア活動結果の校内共有を図り学生への意識を高めて欲しい。